

会社概要

(2016年6月30日現在)

- 社名 株式会社C&Gシステムズ (C&G SYSTEMS INC.)
- 設立 2007年7月2日
- 資本金 5億円
- 従業員 235名(連結)
- 本社所在地 (東京) 〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号 天王洲セントラルタワー19F (北九州) 〒806-0067 福岡県北九州市八幡西区引野一丁目5番15号
- 本店所在地 〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号
- 電話番号 03-6864-0777 (代表)
- 事業内容 金型製造用CAD/CAMシステム、生産管理システム等の開発、販売、サポート
- 主な拠点(国内) 東京支店、北関東支店、名古屋支店、大阪支店、九州支店 (海外) 中国テクニカルセンター、インドネシアテクニカルセンター

株主メモ

- 事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会 毎年3月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当金 毎年12月31日
中間配当金 毎年6月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
- 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) (電話照会先) ☎ 0120-782-031
- 公告方法 電子公告 (<http://www.cgsys.co.jp/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 単元株式数 100株
- 上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)

C&Gシステムズ IRサイトのご紹介

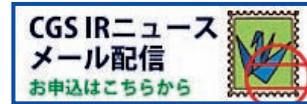
当社への理解をより深めていただくため最新IR情報を掲載したIRサイトをご活用下さい。

個人投資家の皆さまへ

当社の事業内容、強み、業績等、当社の情報をまとめ、分かりやすくご紹介しております。

IRメールニュース配信

IR関連情報を掲載した「CGS IR MAIL NEWS」を配信しております。メールアドレスご登録はCGSのIRサイトから！



<http://www.cgsys.co.jp/jp/ir/>



決算説明会動画

株主・投資家の皆さまに広く当社の決算概要をご理解いただくため、社長の塩田による決算説明会動画を掲載しております。



会社紹介ムービー

当社で働く社員の様子、ユーザー様のインタビューを交えた、当社の会社紹介ムービーをご覧ください。



10th Interim Business Report

第10期第2四半期 株主通信
2016年1月1日～2016年6月30日



世界を築く、創造のソリューション。

株式会社C&Gシステムズ

証券コード：6633

株主の皆さまには、いつも変わらぬご支援を賜り誠にありがとうございます。2016年12月期第2四半期の営業概況について、ご報告申し上げます。

2016年12月期第2四半期の業績は？

好調だった前年同四半期との比較では減収減益となるものの連結業績予想に対する進捗は50%程度と順調に推移

当第2四半期連結累計期間においては、CAD/CAMシステム等事業では、主力製品である金型用3次元CAMシステム「CAM-TOOL」の最新バージョンを2016年4月にリリースいたしました。またそのオプション機能として新たに開発いたしました金型用モデリング作業を大幅短縮する「サーフェスプラス」についても、ユーザから大変ご好評をいただいております。また金型製造事業においては、北米において前年度から引き続き自動車産業が活況を呈している中、下期以降の売上確保に向けて積極的な受注活動を行ってまいりました。

このような状況下、当第2四半期連結累計期間の当社グループの連結業績は売上高が21億79百万円、営業利益が2億25百万円となり、前年同四半期比では売上高が7.1%減、営業利益が20.7%減となりました。当第2四半期連結累計期間の減収の主な要因は、CAD/CAMシステム等事業においてターゲットとしていた製造業向け政府補助金に関し、2015年は執行時期が第1四半期となり上期業績が好調であったことに対し、2016年では執行時期が下期となったことによるものです。また金型製造事業においては北米の自動車産業が好調に推移していることを受け、ドルベースでは増収となった一方、円高の影響により円ベースでは減収となりました。

なお前年同四半期比では減収減益となっておりますが、通期業績予想に対しての上期進捗率は売上高・営業利益ともに50%程度となっており、順調に推移しているものと認識しております。

海外CAD/CAMシステム販売の状況について教えてください

新たな地域開拓、新規ローカル企業の掘り起こしに注力

海外CAD/CAMシステム事業において当社グループが主力市場としているアジア地域では、タイでの長引く政情不安、中国・韓国・インドネシアの景気冷え込み等により設備投資意欲が低調に推移しております。これをカバーするため、近年経済が活発化

しているベトナムおよび日本の部品メーカーの進出が著しいメキシコ等での営業活動に力を注ぎましたが、結果としては厳しい状況となりました。加えて現地通貨ベースから円換算の際に円高の影響を受けたことが、さらに収益を押し下げる要因となりました。

2016年下期については、引き続き生産財メーカーとの協業、現地販売店との協力体制構築を図り、ローカル企業の掘り起こしを中心とした新たな地域開拓、新規ユーザ獲得を図ります。また当社CAD/CAMソフトウェアの利用エリアの拡大に対応するため、並行してインターナショナルスタッフのさらなる育成にも努めたいと考えております。

新規事業の内容および進捗状況を教えてください

当社切削技術を活かした3Dプリンタ関連ソリューション事業を推進

現在当社が進めている新規事業としては、当社が培ってきた切削技術を活かした3Dプリンタ関連ソリューションがあります。非常に精度の高い当社のCAMエンジンが3Dプリンタで活用できるようになるということで、金型関連業界でもご注目いただいております。本システムは、工作機械メーカーである榎本工業株式会社様と静岡文化芸術大学様との産官学共同研究開発として進めているものです。

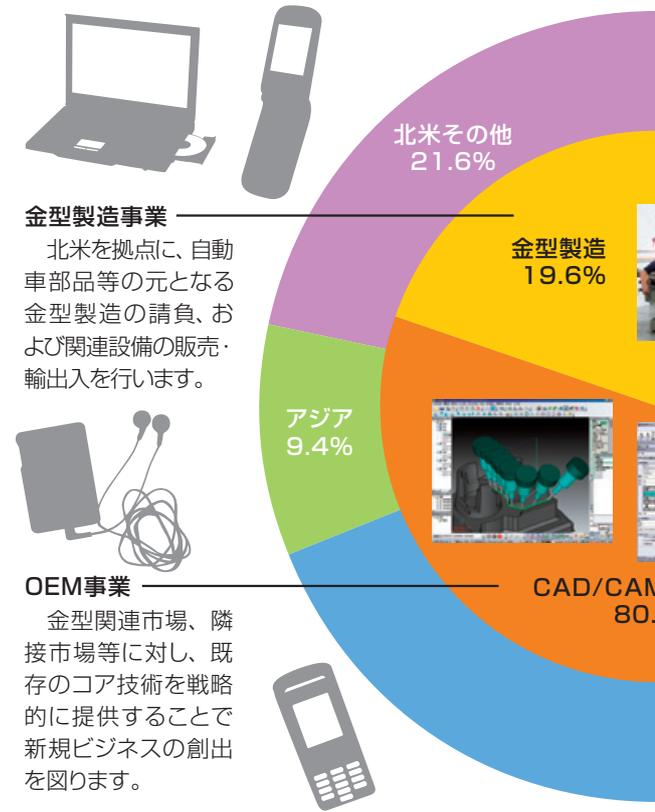
現在開発中のシステムの最大の特長は積層機能（樹脂を積み上げる）と切削機能（樹脂を削る）機能をハイブリッド化していることで、これにより造形スピードの高速化、造形精度の向上など、製造分野でのさまざまな利便性向上が見込まれます。なお近い将来、展示会等を通じて試作機をお披露目できる機会を鋭意企画中です。株主の皆さまにもぜひご期待いただきたいと考えております。

今後も世界のモノづくり分野において、「グローバル・ニッチ・トップ」を目指し、顧客満足度向上、ひいては企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社へのご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2016年9月吉日

代表取締役社長
塩田 聖一



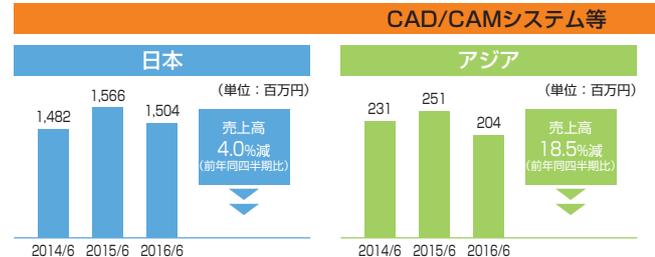
金型製造事業

北米を拠点に、自動車部品等の元となる金型製造の請負、および関連設備の販売・輸出入を行います。



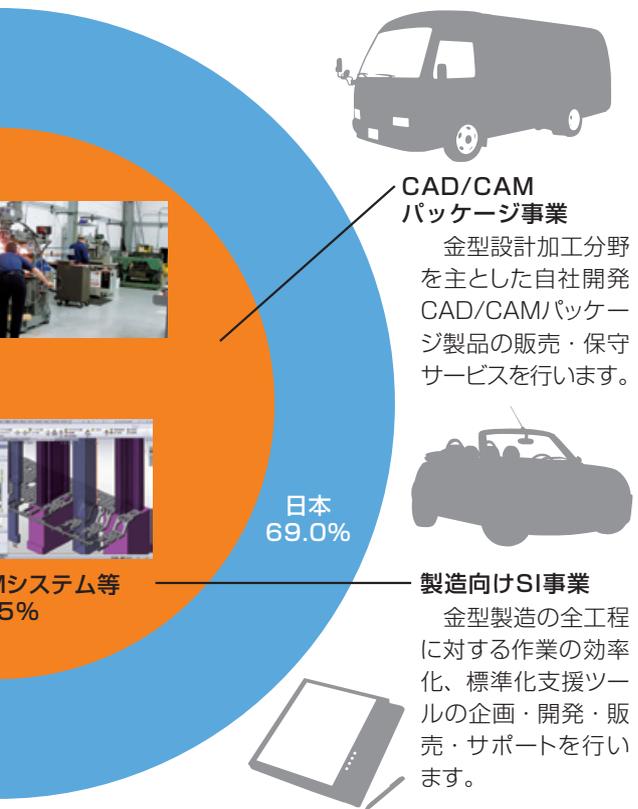
OEM事業

金型関連市場、隣接市場等に対し、既存のコア技術を戦略的に提供することで新規ビジネスの創出を図ります。



2015年度は製造業向け政府補助金の執行時期が第1四半期となったことなどから、若干の上期偏重で推移いたしました。2016年度ではそのターゲット時期が下期となった影響から、前年同四半期と比較して4.0%の減収となりました。

政情不安、景気冷え込み等によりアジアの主力市場で低調に推移いたしました。ベトナム、マレーシア等での売上が増加したものの上記地域の不振をカバーするに至らず、また円換算時に円高の影響を受けたことで、円建てでは前年同四半期と比較して18.5%の減収となりました。



**CAD/CAM
パッケージ事業**

金型設計加工分野を主とした自社開発CAD/CAM/パッケージ製品の販売・保守サービスを行います。



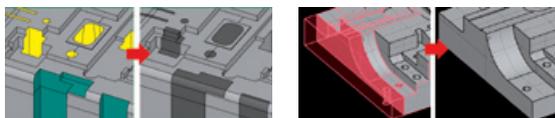
製造向けSI事業

金型製造の全工程に対する作業の効率化、標準化支援ツールの企画・開発・販売・サポートを行います。



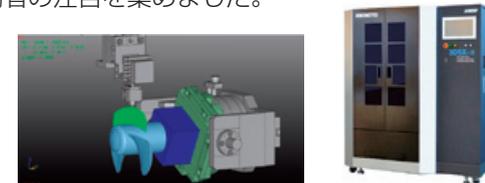
「CAM-TOOL」オプション「サーフェスプラス」をリリース

2016年4月、金型用3次元CAMシステム「CAM-TOOL」の最新バージョン12に搭載可能なオプション「サーフェスプラス」をリリースいたしました。サーフェスマデラーを搭載する「CAM-TOOL」においてソリッドモデラーのような使用感での面の削除・移動を実現することで、手間にかかる金型用モデリング作業の工数を大幅に削減いたしました。



3Dプリンタ関連ソリューション「設計・製造ソリューション展」に出展

2016年6月、「第27回設計・製造ソリューション展」において、榎本工業株式会社様とともに、当社がソフトウェア部分を開発した「同時5軸FDM（熱溶解積層型）」方式の3Dプリンタ試作機を出品いたしました。試作機ではプロペラのモデルを例に積層・切削の工程をご覧いただき、来場者の注目を集めました。



CGSグループ企業の紹介

Tritech International, LLC (アメリカ)



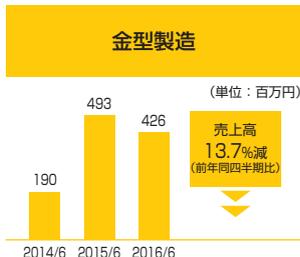
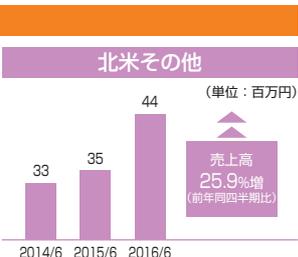
Tritech International, LLC (以下、トライテック) は、2004年7月に設立、CGSグループの中で唯一、金型製造事業を担っている米国・シカゴを拠点とする企業です。トライテックの事業の特長は「ファブレス方式」を採用しているところに集約されます。北米を拠点とする日系の自動車/自動車部品メーカーの1次下請け・2次下請け企業から金型を受注すると、その製造を主に韓国の有力金型メーカーに委託、金型完成後は一部仕上げを行い納品する「金型請負」というビジネスモデルであり、大規模な製造設備を持たず、経営資源の多くを企画開発やマーケティングに集中させています。

トライテックはこれからも「ファブレス型金型請負業」という独自のビジネスモデルを武器に、グループの収益拡大に貢献できるよう取り組んでまいります。



会社概要

社名 Tritech International, LLC
 所在地 1710 Todd Farm Dr. Elgin, IL 60123
 事業内容 北米のマーケットにおける金型製造請負および関連設備の販売・輸出入
 設立 2004年7月



2016年上期は、米国・カナダでの売上は円高の影響を受け減収となったものの、日系企業の進出が増加しているメキシコでの売上が伸びたことにより前年同四半期と比較して25.9%の増収となりました。

金型製造事業においては、北米の自動車産業が活況を呈する中、ドルベースでは好調だった前年同四半期比業績をさらに上回ったものの、円高の影響を受け、円建てでは前年同四半期と比較して13.7%の減収となりました。

連結貸借対照表の概要

(単位：千円)

前連結会計年度末 2015年12月31日現在	当第2四半期末 2016年6月30日現在	前連結会計年度末 2015年12月31日現在	当第2四半期末 2016年6月30日現在
資産合計 4,141,297	資産合計 POINT 1 4,159,226	負債・純資産合計 4,141,297	負債・純資産合計 4,159,226
流動資産 2,692,253	流動資産 2,732,468	負債 1,970,362	負債 POINT 2 1,994,844
固定資産 1,449,043	固定資産 1,426,757	純資産 2,170,934	純資産 POINT 3 2,164,381

POINT 1 資産の変動
総資産は、前連結会計年度末と比較して17億円増加し、41億59百万円となりました。主な増加要因は現金及び預金98百万円、主な減少要因はたな卸資産60百万円および無形固定資産18百万円です。

POINT 2 負債の変動
負債は、前連結会計年度末と比較して24百万円増加し、19億94百万円となりました。主な増加要因は未払法人税等40百万円、主な減少要因は前受金22百万円です。

POINT 3 純資産の変動
純資産は、前連結会計年度末と比較して6百万円減少し、21億64百万円となりました。主な増加要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加1億37百万円、主な減少要因は為替換算調整勘定38百万円および配当金の支払いによる利益剰余金の減少98百万円です。

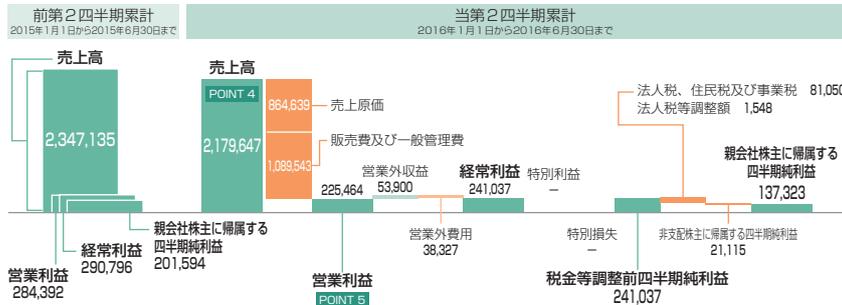
役員の内訳

(2016年6月30日現在)

代表取締役会長	山口 修司
代表取締役社長	塩田 聖一
常務取締役	伴野 裕之
取締役	寺崎 和彦
取締役	大野 聡太郎
取締役	春日 勝人
常勤監査等委員	佐藤 淳
監査等委員(社外取締役)	山田 英雄
監査等委員(社外取締役)	橋本 光

連結損益計算書の概要

(単位：千円)



POINT 4 売上高の動き
連結売上高は、前年同四半期比で7.1%減となりました。金型製造子会社の売上高の円換算時に円高の影響を受けたこと、および2015年は国内の製造業向け政府補助金の執行時期が第1四半期となりCAD/CAMシステム等事業の上期業績が好調であったことなどが主な理由です。

POINT 5 営業利益の動き
連結営業利益は、前年同四半期比で20.7%減となりました。POINT 4「売上高の動き」に記載の通り、売上高が減少したことに伴い連結営業利益も減少、この結果連結営業利益率は前年同四半期比で1.8ポイント減の10.3%となりました。

株式情報

(2016年6月30日現在)

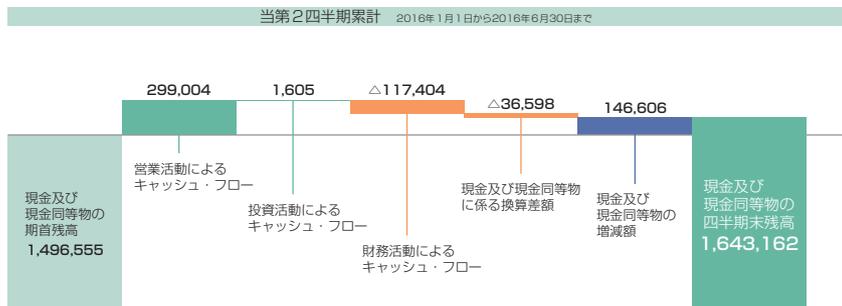
●株式の状況
発行可能株式総数 48,000,000株
発行済株式の総数 9,801,549株
株主数 5,054名

●大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社山口クリエイト	1,672,190	17.06
日本生命保険相互会社	459,740	4.69
山口修司	293,169	2.99
リズム時計工業株式会社	210,100	2.14
株式会社SBI証券	134,400	1.37
C&Gシステムズ従業員持株会	104,769	1.07
株式会社兼松ケージーケイ	99,800	1.02
株式会社西日本シティ銀行	99,800	1.02
楽天証券株式会社	97,000	0.99
小栗 恵一	81,300	0.83

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：千円)



POINT 6 キャッシュ・フローの状況
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益2億41百万円および減価償却費60百万円等により、2億99百万円の増加となり、前年同四半期比で3億95百万円の増加となりました。
投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入1億28百万円、定期預金の預入による支出89百万円、無形固定資産の取得による支出21百万円および保険積立金の積立による支出12百万円等により、1百万円の増加となり、前年同四半期比で76百万円の増加となりました。
財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いによる支出1億16百万円等により、1億17百万円の減少となり、前年同四半期比で2億79百万円の増加となりました。

●株式分布状況

